

❧ 夏目漱石 来熊本120周年記念 ❧



夏目漱石 記念年レガッタ 2017

夏目 漱石

主催：夏目漱石記念年100人委員会、熊本県ボート協会
主管：熊本市ボート協会
共催：熊本日日新聞社

後援：熊本大学、熊本学園大学、熊本県教育委員会、熊本市体育協会
協賛：肥後東ライオンズクラブ、室原会

夏目漱石記念年レガッタ2017 実施要項

1 趣旨

熊本のボート競技の礎を築いた旧制第五高等学校ボート部 第二代部長夏目漱石の来熊120周年を記念して、以下の事業を行う。

2 開催団体

主催：夏目漱石記念年100人委員会、熊本県ボート協会 主管：熊本市ボート協会
共催：熊本日日新聞社
後援：熊本大学、熊本学園大学、熊本県教育委員会、熊本市体育協会
協賛：肥後東ライオンズクラブ、室原会

3 行事名・日時・場所

- ・記念年レセプション：平成29年12月2日（土）18:30～20:30
場所：水前寺「松屋別館」
- ・記念年レガッタ：平成29年12月3日（日） 9:00～12:00 江津湖ボート場

4 記念行事内容

・記念年レセプション

漱石の前任校である旧制松山中学校（現愛媛県立松山東高等学校）ボート部員を交えて、漱石が楽しんだボートをこよなく愛する面々が一堂に会しての親睦パーティ。

・記念年レガッタ

- (1) 「坊ちゃん・三四郎レガッタ」 江津湖1000mボートコース
男女 シングルスカル、ダブルスカル、舵手付きクオドブルによる
松山東高校クルーと地元高校・大学生クルーとの交流レース。
- (2) 「記念親睦レガッタ」 江津湖1000mコース内300m特設
漱石が漕いだ水域で、漱石が漕いだボートに近いナックルフォアーによる
高校、大学OB・OGクルー、市民クルーによる親睦レース。

あ い さ つ

熊本県ボート協会

会長 三井 宜之

2016（平成28）年にスタートしました夏目漱石記念年事業のフィナルステージのイベントとして、「夏目漱石記念年レガッタ2017」を漱石ゆかりの江津湖で開催できますことは、私どもボート競技の普及・振興に携わる者を始め、漱石を敬愛する全ての人々にとりまして大きな喜びです。

夏目漱石は1896（明治29）年4月に第五高等学校英語教師として来熊し、同年8月頃、前年11月に発足したばかりの同校端艇（ボート）部の第二代部長に就任しています。

漱石は学生時代にボートを漕ぎ、我が国ボート界の黎明期に活躍したひとりであり、1894（明治27）年4月開催の東京大学第8回運動会春季競漕会では役員（幹事）を務めています。

これらのボートに関するキャリアは発足間もない五高ボート部にとって貴重この上ないものであり、その後の五高ボート部の活動はもとより、熊本におけるボート競技の発展の礎になったと言っても過言でないと思います。

今回のレガッタには、漱石の前任校である旧制松山中学校（現愛媛県立松山東高等学校）のボート部員男女合わせて20余名が参加します。

漱石ゆかりの伊予（松山）と肥後（熊本）の若者達が、漱石がボートを漕ぎ楽しんだ当時と変わらない湖面で、交流レガッタをできますことは誠に喜ばしく、今後も江津湖の自然環境が保存され、幾世代に渡りこのようなレガッタが開催できることを願っています。

また松山東高等学校女子ボート部発祥で同校のスローガンにもなっている『がんばっていきまっしょい “Let's try our best”』は、熊本地震からの復旧・復興途上にある熊本県民にとって、大きな励ましにもなると確信しています。

最後になりましたが、本事業の実施に際し、ボート部員の派遣に快く承諾して頂いた松山東高等学校関係者ならびに多大なご協力とご支援を頂いた皆様に心より感謝の意を表します。

～ 夏目漱石とボート ～

文責 松村 忠彦

「夏目漱石記念年レガッタ2017」開催にあたり、熊本のボート競技の礎を築いた旧制第五高等学校端艇部第二代部長夏目金之助についてエピソードを紹介します。

「ボートとの出会い」

わが国最初の対抗レースである東大と東京師範学校との回航レースが行われた明治16年から2年後、大学予備門予科(後の第一高等中学校)、明治18年18歳の頃の金之助本人のボート経験を「不勉強位であったから、どちらかと云えば運動は比較的好きの方であったが、その運動も身体が虚弱であった為、規則正しい運動を努めてやったというのではない。ただ遊んだという方に過ぎないが、端艇競漕ボートレースなどは、まず好んでやった方であろう。前の中村是公氏などは、中々運動は上手の方で、何時もボートではチャンピオンになっていた位であるが、私は好きでやったと云っても、チャンピオンなどにはどうしてもなれなかった。」と雑誌「中学世界」に「私の経過した学生時代」(明治42年)で述べています。

「端艇部長としての夏目漱石」

明治29年4月12日に第五高等学校端艇部では、創部して初めて春季競漕大会を開催しており、その余韻が残る翌日、午後2時に夏目漱石が第五高等学校講師として上熊本駅に到着するのです。前年に端艇部ができ、ボート経験者の登場です。端艇部規則第3条に「本部に部長1名を置き、名誉部員に就き之を推選す。」とあり、早々にその経験を買われて夏目教授が2代目部長に推選されています。ちなみに、漱石は慶応3年1月5日(新暦2月9日)生まれで、翌年には明治に改元されているので、明治年号と年齢が同じになり、29歳で来熊し、端艇部長に就任したことになります。

「漱石、画図湖でボートを漕ぐ」

明治30年2月16日の九州日日新聞に画図湖の短艇競漕と題する記事が掲載されています。そこには、五高のボートレースの勝利者の名前が書いてあって、その中に夏目金之助の名前が挙がっています。漱石が、14日に行われたボートレースの中の職員の部で大差をつけて勝ったという記事です。当時の画図橋下流竹島と江津村の間600メートルを往復する1200メートルの航程で、レースは午前11時に開催。午後3時45分まで、11レース行われました。漱石が出たのは第7レース。群衆およそ400人が両岸に立ち並び、あるいは舟を出して観戦し、大変な賑わいでした。」との記事があります。

「端艇部拡張に奔走する」

明治30年5月20日 中川元校長、教頭、夏目金之助端艇部長他教職員と吉田久太郎 富田定壽の生徒評議員8名連名で寄付を募る文書も出しています。

更に同日、第五高等学校竜南会附属端艇部学校職員賛成者として中川元校長他21名の連名で壱千六百三十圓の拡張費予算（競漕艇四艘製造費、艇庫一棟建設費、浚渫費及び土工費、石垣費、土地買上費）を竜南会附属端艇部拡張主意書として計上しています。

「日清戦争の戦利品「鎮遠号」艦載カッター二艘を譲り受ける」

明治30年6月12日 譲り受け廻航のため佐世保に吉田、富田の生徒評議員を派遣。7月末まで佐世保町係留場にて修理、8月2日百貫港回漕、4日に無事江津湖に安着しています。廻航参加者は、五高生16名、元五高生1名、商船学校生徒2名、攻玉社生徒1名、済々黌生徒5名、数学院及び鵬翼舎生徒5名の30名でした。「之れ明治45年まで画図湖を威圧していた旅順、大連の二艇である。31年1月水俣遠航に使用せられて以来、又有明海、天草海上にも其雄姿を顕したものである」（五高端艇部緑水会史22頁平成4年）

<大正13年頃の江津湖でのボートレース（五高記念館所蔵）>



レガッタ日程表

NO	時刻	種目	レーン	クルー	着順	タイム
1	10:00	ナックルフォア A組	1	済水会B		
			2	室原会B		
			3	肥後東BeautyQueen		
			4			
2	10:15	男子 シングルスカル	1	栗原(熊本学園大学付属高校A)		
			2	渡辺(松山東高校)		
			3	矢田(済々黌高校)		
			4	金井(熊本学園大学付属高校B)		
3	10:30	女子 ダブルスカル	1	松山東高校B		
			2	松山東高校A		
			3	熊本学園大学付属高校		
			4	済々黌高校		
4	10:45	ナックルフォア B組	1	あけぼのクリニック		
			2	済水会A		
			3	室原会A		
			4			
5	11:00	男子 ダブルスカル	1	熊本高校		
			2	松山東高校		
			3	済々黌高校		
			4	熊本学園大学付属高校		
6	11:15	女子 舵手付クオドルプル	1	熊本学園大学付属高校		
			2	松山東高校		
			3	熊本大学医学部		
			4			
7	11:30	ナックルフォア C組	1	熊本市消防局ファイヤーファイターズ		
			2	肥後東SuperStars		
			3	龍水会		
			4	チーム漕row者		
8	11:45	男子 舵手付クオドルプル	1	熊本大学		
			2	松山東高校		
			3	熊本学園大学付属高校		
			4	済々黌高校		

～記念親睦レガッタクルー～

江津湖 1000m コース内 300m 特設

- ① 済々黌 OB・OG クルーA
C福岡 S北岡 3南部 2大村 B松村
- ② 済々黌 OB・OG クルーB
C高校生 S山本恵美 3柴本眞希 2岡村将 B荒木大助
- ③ 室原会 A
C高栢良子 S東山健児 3犬童博信 2中山雄真 B井上太郎
- ④ 室原会 B
C藤野順子 S中嶋朋子 3市川睦美 2川述雅裕 B徳永絵明
- ⑤ チーム漕 row 者
C池田一好 S藤村栄春 3吉村タケシ 2井出晴朗 B佐藤圭
- ⑥ あげぼのクリニック
C宮崎未来 S日田美保 3宮本潤一郎 2三浦智玄 B森英誌
- ⑦ 熊本市消防局ファイヤーファイターズ
C永田友己奈 S五十嵐達哉 3吉永貴哉 2富山大輔 B菊池高恭
- ⑧ 肥後東 SuperStars
C山崎茂 S津留将太郎 3田中芳和 2小杉康太 B佐藤友治
- ⑨ 肥後東 BeautyQueens
C桑田清美 S中尾彩子 3吉住志保 2松山麻末 B村崎早也加
- ⑩ 龍水会
C大隈豊樹 S梅崎和幸 3仲西耕平 2荒牧新 B大久保太郎

「私達は、最後まで支援致します」



肥後東ライオンズクラブ

熊本県ボート協会会員

「みんなの元気を寄せ合えば、明日への勇気と希望へつながるね」

そのひとかきが、勇気をかき出す がまだすばい!! くまもと

主な活動地区(熊本市東区・益城町・西原村・嘉島町・他)



漱石記念年
2016-2017

夏目漱石がボートを
漕いだ熊本市東区の下
江津湖で3日、「夏目

松山東高とボート交流

県内高校、大学生 ゆかりの下江津湖で



漱石記念年レガッタ」
が開かれ、県内の高校
や大学のボート部メン
バーが、漱石とゆかり
の深い愛媛県の松山東
高ボート部と交流を深
めた。

熊本地震 県内の被災状況	
直接死	50人
震災関連死	197人
二次災害死	5人
負傷者	2,720人
建物 住宅	197,254棟
仮設住宅	3,904戸 (10,042人)
みなし 仮設	14,027戸 (32,035人)
公営住宅 など	915戸 (1,940人)

約100人が参加。風

(立石真一)

松山東高の前身は旧
制松山中。漱石が旧制
五高(現在の熊本大)
に着任する前に教壇に
立った縁から、漱石生
誕150年を盛り上げ
ようと、記念年100
人委員会と県ボート協
会が開催した。

同校ボート部の23人
をはじめ、江津湖を拠
点に練習する熊大、済
々堂高、学園大付高ボ
ート部の生徒やOBら

のない絶好のボート日
和の中、千原と300
原のコースで、8種目
のレースに臨んだ。

松山東高2年の金並
泰輝主将は「漱石をき
っかけに熊本に来るこ
とができて楽しかつ
た。学校の近くにこん
な練習環境があつてう
らやましい」と話した。

同校ボート部は映画
やドラマ化された小説
「がんばっていきまっ
しよい」のモデル。レ
ース終了後、生徒たち
は学校名物のこの掛け
声を披露し、熊本地震
からの復興に向けエー
ルを送った。

下江津湖で繰り広げら
れた「夏目漱石記念年
レガッタ」。手前から
2番目が松山東高ボ
ート部

＝3日、熊本市東区

一草一木も... (vertical text on the right margin)